

# 地域住民による自主的な森林管理の推進や防災意識の向上に繋がった事例

事業名：特認事業（里山防災林整備事業）

市町名：広島市

## 取組のきっかけ・経緯

- ・土砂災害から市民の生命・財産を守り、安心・安全な暮らしを実現するためには、森林が持つ公益的機能の向上による山腹斜面の安定化が必要である。
- ・地域の森林の現状を森林所有者や地域住民自らが把握し、災害の危険性を事前に確認するなど、地域ぐるみによる自主的な防災・減災への取組が不可欠である。

## 取組の内容

- ・事業主体：伴中央町内会
- ・実施場所：安佐南区沼田町伴
- ・事業量：0.71ha(里山林の整備)  
116m(巡視路の開設など)
- ・補助額：1,074,120円
- ・実施期間：令和元年12月25日  
～令和2年3月25日



## 取組団体からの意見

- ・巡視路を設置したことにより、住民が山に入る機会が増え、森林への関心が高まった。
- ・うっそうとした里山林を整備したことにより、景観が良くなった。

## 団体の取組実績・効果

- ・土砂災害の恐れのある区域において、林内の下層植生の回復や樹木の健全な成長を促すために行う里山林の整備により、防災・減災の機能を向上させた。
- ・災害に強い森林を整備するとともに、地域住民が森林の状況を把握できるよう、森林を巡視するための道を整備することにより、地域住民による自主的な森林管理の推進や防災意識の向上が図られた。



# 自伐林業の実践により、持続可能な森林整備を進めた事例

事業名：里山保全活用支援事業

市町名：広島市

## 取組のきっかけ・経緯

・本市では、森林所有者の管理意識を高揚し、適切な森林管理の促進と中山間地域の活性化を図るため、地域住民や森林所有者等が、森林から未利用材を搬出し、チップや薪等の木質バイオマス燃料等として利活用する取組を支援している。

## 目指す森林育成ビジョン

・健全な大木からなる森づくりを目指し、間伐などで発生したスギ・ヒノキは、用材又はチップ材として、広葉樹は薪に加工し、活用する。  
・「スギ・ヒノキの大木が育ち、その下には広葉樹が茂る環境に優しい森づくり」を目標とする。

## 取組の内容

- ・事業主体：ひろしまの元気な森づくり推進隊
- ・実施場所：佐伯区湯来町多田
- ・事業量：25回(活動回数)
- ・補助額：89,700円
- ・実施期間：令和元年10月11日  
～令和2年3月4日



## 団体の取組実績・効果

- ・日本の森林ボランティアの先駆けとなる持続可能なモデルとして、広く普及させることを目指し、森林整備を進めた。
- ・森林所有者から借用した森林について、自らの手で経営管理を行う新たな自伐林業を実践した。
- ・得られた売却益は、持続可能な自伐林業の活動資金に充てるとともに、森林所有者に一部を還元し、地域の活性化にも貢献した。



# 森林所有者や地域住民等が主体となって行う伐採、搬出作業の担い手を育成した事例

事業名：特認事業（森林・林業体験活動支援事業）

市町名：広島市

## 取組のきっかけ・経緯

- ・森林所有者や地域住民等が自ら森林を整備し、未利用材を森林から搬出する作業の担い手を育成するため、「自伐林業担い手支援講習会」を開催している。
- ・この講座は、平成30年度から継続して実施しており、講座の修了生は、令和元年度末現在で、延べ60人となっている。

## 取組の内容

- ・事業主体：広島市
- ・実施場所：広島市安佐北区白木町大字 井原ほか
- ・事業量：28人
- ・事業費：986,000円
- ・実施期間：令和元年9月15日  
～令和元年12月2日



## 講座の特徴・効果

- ・伐採、搬出、作業道の開設などに関する作業が学べるカリキュラムで、特に地域に密着した自伐林業を目指す方々にとって、役立つものとなっている。
- ・森林の伐採、未利用材の搬出作業等の担い手を育成することにより、森林の適正な管理が促進された。



バックホウを用いて、掘削する様子



作業道を開設した後の様子

# 市民参加による森林づくりのリーダー的役割を担う 人材を育成した事例

事業名：特認事業（森林・林業体験活動支援事業）

市町名：広島市

## 取組のきっかけ・経緯

- ・市民参加の森林づくりの先導的役割を果たすボランティアを育成するため、森林に関する知識や林業の技術習得に係る「もりメイト育成講座」を開催している。
- ・この講座は、平成8年度から継続して実施しており、講座の修了生は、令和元年度末現在で、延べ666人となっている。

## 取組の内容

- ・事業主体：市民参加の森づくり実行委員会
- ・実施場所：広島市安佐南区沼田町大字阿戸ほか
- ・事業量：23人(修了生)
- ・事業費：855,516円  
(うち、県交付金143,000円)
- ・実施期間：令和元年6月22日  
～令和2年3月7日



## 講座の特徴・効果

- ・下刈りや間伐など、林業に関する一連の作業が学べるカリキュラムで、森林ボランティア活動に取り組もうとしている方にとって、役立つものとなっている。
- ・平成29年度から、森林整備に関わる人材を育成するため、広島市内だけでなく、広域都市圏内の在住者も対象として実施している。
- ・圏域内の森林ボランティアが増えることにより、森林整備や森林に関する理解の醸成が促進された。



# 木のおもちゃを使うことで、子どもたちが木の魅力を体感し、森林に対する理解を深めた事例

事業名：森林・林業体験活動支援事業

市町名：広島市

## 取組のきっかけ・経緯

- ・子どもたちに木の温もりや質感に親んでもらい、広島県産の木の魅力を体感してもらいたいと考え、木のおもちゃを活用した「木育」に取り組んでいる。
- ・平成29年度は常設のオープンスペース16施設に延べ43種類、平成30年度は公立保育園21園を対象に、1園当たり7種類の木のおもちゃを配布し、先生が園児へ読み聞かせを行った。

## 取組の内容

- ・事業主体：広島市
- ・実施場所：広島市内一円
- ・受注者：たむろ木材カンパニー(株)
- ・事業量：木のおもちゃ一式 20園  
(1園当たり7種類)
- ・事業費：5,680,800円
- ・実施期間：令和元年5月21日  
～令和元年9月17日



## 保護者からの意見

- ・木のおもちゃは安心ですね。
- ・木に触れると心がすっと落ち着きます。
- ・木の香りがいいですね。

## 木のおもちゃに携わる担当者の思い

- ・木材の持つ「色」「音」「温もり」「香り」「柔らかさ」など、人間の五感を通して感じる木の良さを、感受性が豊かな子どもの時期に体験することで、木に親しみを持ってもらいたい。
- ・保護者の方にも、子どもたちと一緒に木の良さを感じて親しみを持ってもらうこと、この体験から木材を利用すること、森林を守ることにについて、関心を持つきっかけにしてもらいたい。
- ・この2つの思いから、広島市では、木のおもちゃを製作し、各施設で使ってもらっている。
- ・これからも、森づくりがますます進んでいくことを期待し、木のおもちゃを活用して「木育」に取り組んでいきたい。

